

4. 教育支援ボランティア活動

教育支援ボランティア活動とは、学生が学外（学校やその他の教育関係機関）で子どもたちの教育の補助・支援を行ったり教員の業務の補助をしたりすることである。それは、学校や教育機関などの教育活動を支えるための活動であることはもちろんだが、参加する学生にとっても大きな価値のある活動である。教員養成の段階においても教員としての実践的な指導力の育成が求められる現在において、実際の教育現場での体験を通じた学生の学びは、大学の中だけでは得ることのできない貴重なものになるからである。

本センターは、水戸市を中心とした茨城県内すべての学校、教育機関を対象にした教育支援ボランティア活動について、各学校や教育機関との連絡・調整、学生への周知を行っている。教育学部だけでなくすべての学部の学生がその参加対象であり、幼稚園から高等学校あるいは特別支援学校というように校種、活動場所、活動内容も多様である。

今年度は、昨年度に引き続きコロナ禍による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対応を余儀なくされ、それに伴い教育支援ボランティア活動も大きく制限せざるを得ない状況になった。しかし、その限られた活動期間の中でも、積極的にボランティア活動に参加しようとする学生の姿も見られた。以下にその取組状況を示す。

(1) 教育支援ボランティア活動全体の取組状況

以下の表は、今年度の教育支援ボランティア活動全体の取組状況である。水戸市学校支援活動の依頼件数は158件、派遣件数は21件であった。活動に参加した学生の数（活動延べ人数）は64人で昨年度よりは若干増えた。茨城県内の教育支援ボランティア活動の依頼件数は30件、派遣件数は20件であった。活動延べ人数は昨年度より20人ほど少ない99人だった。高等学校ボランティアは今年度も募集を行わなかった。今年度活動に参加した延べ人数は165人で、昨年度とほぼ変わらなかった。また、自らが希望した学校で活動を行うボランティアは、高等学校で2人だった。

令和3年度 教育支援ボランティア活動状況

活動名	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
水戸市学校支援活動	158	21	64
県内教育支援ボランティア活動	30	20	99
高校ボランティア活動	0	2	2
合計	188	43	165

参加実人数 117人（教育学部 106人、人文社会科学部 1人、理学部 8人、工学部 2人）

(2) 水戸市学校支援活動

今年度もコロナ禍の状況ではあったが、通常通り5月にボランティア募集を開始した。徐々に参加者が増えてきたところで、再び8月20日から9月30日まで緊急事態宣言が出され、引き続き学生の入構制限が10月12日まで延長されたため、ボランティア活動も制限されてしまった。その後いったんは感染者減少によりボランティア活動を再開でき

たが、今度はオミクロン株の急速な感染拡大により、1月27日から3月21日まで、まん延防止等重点措置の期間となり、新規のボランティア募集は行えず、今年度のボランティア活動は終了となった。

この間、すでに活動しているボランティアについては、活動先と学生の間で感染対策を徹底しながら継続した。

令和3年度 水戸市学校支援活動状況

派遣先	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
幼稚園	19	1	1
小学校	122	18	60
義務教育学校	3	0	0
中学校	14	2	3
合計	158	21	64

依頼された支援活動及び実際に学生が参加した活動内容の詳細については、21頁以降の通りである。また、水戸市教育委員会による報告書も掲載する。

(3) 茨城県内教育支援ボランティア活動

今年度もコロナ禍の状況が続き、ボランティア活動に参加したいと思ってもなかなか希望する活動が行えなかった。それでも昨年度は中止となった「理科観察実験アシスタント事業」が今年度は通常通り行われ、9名の学生が4つの小学校でアシスタントとして活動できた。また、水戸市社会福祉協議会が募集した「子どもの学習支援事業」には17名の参加があった。学校行事がコロナの関係で日程変更になったりして、予定していたボランティアに参加できなくなるケースもあった。そのため、教育委員会などの学習支援事業で、活動期間が長いボランティアに参加する学生が多かった。

令和3年度 茨城県内教育支援ボランティア活動状況

派遣先	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
学校関係(高校含む)	18	11	48
教育委員会関係	7	5	25
教育関係機関	5	4	26
合計	30	20	99

依頼された支援活動及び実際に学生が参加した活動内容の詳細については、35頁以降に示す通りである。

(4) 高等学校ボランティア活動

昨年度に続いて今年度も高等学校へのボランティア募集は行わなかったが、2名の学生が自ら希望してボランティア活動を行った。

(5) ボランティア活動に参加した学生の感想

○業間（昼休み）における児童の遊び相手・相談相手

- ・どの学年もみんな元気いっぱいに遊んでいた。学年関係なく、仲良く遊んでいる姿が印象的だった。私も児童と鬼ごっこをして遊んだ。体力がある子や足が速い子が多く、追いかけていて疲れてしまったが、みんなが楽しそうに遊んでいるのを見て、私も一緒に楽しむことができた。数回訪れると、私のことを覚えてくれる子が増え、話しかけにきてくれて嬉しかった。昼休みの間は、児童だけでなく先生方も数名グラウンドに出て、児童を見守ったり一緒に遊んだりしていた。昼休みのグラウンドでは、けがをしそうな危険な場所や場面があったので、教師が見守ることは児童の安全のために大切であると思った。また、先生と一緒に遊んでいる児童はとても楽しそうで、先生も全力で遊んでいた。教師も児童と一緒に遊ぶことで、信頼関係を築くことができるし、けんかをしてしまった児童がいたときに指導をすることができる。その点で、昼休みは単なる休み時間ではなく、子どもたちと関わることのできる大切な時間であると感じた。

○理科観察実験アシスタント

- ・今回の観察実験アシスタントでは、感心したりや難しいと感じたり、学ぶところが多かったです。私は、アシスタント活動の中で、児童の発言や表情、態度に注目して、児童の実態や考え方を理解しようと努めていました。小学生は、何事に対しても興味・関心があり、理科の授業においても、初めて見る物質にすごく興味を示していました。そのため、児童一人一人が生き生きと、主体的に実験に取り組んでいて、とても感心しました。私は、このように、好奇心にあふれ、主体的に取り組める生徒を育てていきたいと思いました。次に、現場対応については、難しいと感じました。具体的に、問題が発生したら、他の先生方に報告し、情報共有をしたり、急な状況変化にも柔軟に対応していくことです。私は、連携を意識し、事前準備をしっかりと、どんな状況にも適切に対応するように心がけました。このように、学ぶところが多く、教員を目指すうえで、いい経験になったと感じました。
- ・実際に先生方の授業を見ることができるので、授業面でも多く勉強になりました。また、実験の準備や補助を通して、小学校の実験についてより理解が深まりました。実験中は主に机間指導という形で各班を回りましたが、子どもたちの気付きや反応、疑問に直接触れることができ、貴重な経験になりました。教育実習以外では、なかなか子どもたちと触れ合う機会がないので、そういった面でも、実践的な活動ができたと感じます。

○特別な支援を必要とする児童の支援

- ・今回のボランティア活動を通して、子どもの実態や支援の方法についてより間近で実践的に学ぶことができました。実際の学校現場での子どもの様子や先生方の支援は大学で学びきれないことがたくさんあり、とても貴重な経験をすることができました。また、継続して子どもたちと関わることで関係を築くことができ、とても楽しく一緒に学ぶことができました。今回の活動で子どもたちや先生方から学んだことを大切にして、子どもの困り感や気持ちに寄り添い、

子どもが安心して学べる環境づくりができるように、これからも頑張りたいと感じました。

- ・支援が必要であっても通常の学級に在籍できる場合には、なるべく他の児童と差が生まれないようにしようと支援を行ったが、とても難しかった。どのように声をかければよいのか、どの程度まで支援をすればよいのかが判断しにくかった。しかし、私自身も沢山笑顔にさせてもらったり、学ぶことも多くあり、このボランティアに参加して良かったと感じている。
- ・特別な支援を要する児童は、授業の最後まで席についていることや集中して先生の話を書くことが難しく、活動を促すことが難しく感じた。しかし、子どもと一緒に遊んだり話したりすることを通じて、声かけのタイミングや伝え方が分かってくるようになり、できることが増えていくと、やりがいを感じるようになった。

○水戸市教育委員会「数学・学習相談 SPOT in MITO」サポーター

- ・中学生が数学でつまづきやすいポイントを確認することができたので、勉強になりました。中学生が集中して問題を解いたり、考えたりしている様子を見て、私も頑張ろうと思うことができました。
- ・レベルが高い子が集まっていた印象があった。そのため、聞かれた問題も難しいものが多かったが、しっかりと理解させることができたと思う。ボランティアを行っていた他の人ともコミュニケーションをとることができたので、いろいろ情報共有もできたのが良かった。

○学校行事の補助（持久走大会）

- ・子どもたちが一生懸命走る姿を近くで見ると応援することができとても感動した。子どもたちの応援の態度への指導や声援の送り方など、教員として小学生にどのように接すると効果的であり適切なのかを現場で間近で見て考えるきっかけになった。学校行事の意義について再度考えられ、準備や片付けなど教員の仕事についても教員の視点で考えることができ良かった。
- ・中学年と高学年では雰囲気は少しずつ異なるが、どの学年でも全員が目の中の友だちを必死に応援しているところに胸を打たれた。児童 1 人ひとりがゴールに向かってひたむきに努力している姿を見て、自分の限界に挑戦することが成長に繋がっていくのだと実感した。また、ボランティアとして数時間補助をした私でさえ思わず涙が出そうになるくらい感動したので、もし担任として児童の頑張りを見守ることになったらとても楽しそうだった。
- ・小学生の年に 1 度の学校行事に携わることができて光栄だった。子どもたちが全力で走り、喜んだり、悔しがったりする姿をボランティア員という立場で近くで見ることができ、新たな学びを得るとともに、教員へのモチベーションが高まった。

○まち探検の補助

- ・まち探検を行ったのが小学 2 年生ということもあり、目的地と学校を行き来する間、児童の安全を確保するのが難しかった。列がすぐ崩れたり唐突に走り出す児童がいるからである。しかし、質問の際には、小学 2 年生ならではの鋭い質問が飛び交い、新しい発見が多かった探検であったと考える。
- ・歩くのが慣れていない道で不安もあったが、教員や保護者の方が一緒に班にいてくれて、心強

かった。ずっとお喋りしてしまう児童や、何かに興味を持ち立ち止まってしまう児童、信号で前列と離ればなれになってしまう児童など、一人で約 10 名の児童を見るのは難しいと思った。今回のように、何人かの大人たちが協力して児童を見守ることで児童の安全を確実に守ることができると感じた。教育実習以来、複数の小学生と話すことは無かったので、教育実習を思い出すような感覚になった。初対面だったが、慣れてくるといろいろお話してくれて嬉しかったし、小学生の可愛さを改めて実感した。

○就学児健康診断の補助

- ・スムーズに健康診断が進むようにするには、誘導の仕方がとても大切だと感じました。就学時健康診断では、学校の先生方がコンタクトを取り合っていることが分かり、勉強になりました。誘導しながら、幼児の観察をしていたため、子どもの発達段階について学ぶことができました。また、就学時健康診断の運営や具体的な流れについても大まかに把握することができました。
- ・普段未就学児と関わる機会がないため、最初は戸惑ったが、視線を低くしたり、言葉遣いを普段より優しくしたりと徐々に相手に合わせた対応ができるようになった。また、保護者の方への丁寧な対応も身につけることができた。先生方がどのように連携して働いているのかということを見近に見ることができた。

○子どもの学習支援事業

- ・学力レベル、境遇、目指している学校など多種多様な子どもたちと接し、一緒に勉強することができ、とても良い経験になった。子どもたちがつまずきやすいところはどこか、どのようにアドバイスしてあげればよいか等、実際に子どもたちと接することでしか学ぶことのできないことをたくさん学ぶことができた。とても有意義なボランティア活動ができた。
- ・学習面だけでなく、生活面に関してのサポートもとても充実されていて、そういった点で、家庭教師や塾講師のアルバイトなどでは味わえない経験をさせていただき、とても勉強になった。休み時間に子供たちと話したり、外でリレーなどを行うのがとても楽しかった。生活困窮世帯の子ども、子どもの発達段階、ボランティア活動を行う社会人などについての見識を深めることができました。
- ・子どもが多くの人と関わることの大切さを感じました。生活困窮世帯では親が不在である時間が長いので、子どもはコミュニケーションをとる機会が少ないと推測されます。そのため、幼い時期に他人との関わり方を学ぶということに関して障害があるものと思われます。実際に学習会に通っていた子どもの中には、最初、明らかに他人との関わりが不得手な子どもがいました。しかし、何度も通い続けるうちに、段々と周りの子どもと打ち解けていくことができていました。これは、子ども同士もそうですが、多くの大人とコミュニケーションをし、その方法を学ぶことができた結果だと思います。子どもが両親と関わることは自立性や社会性の発達に関わるのが研究の結果分かっているようなので、両親でなくとも、より多くの大人とのかかわりは子どもの成長に好影響をもたらすと考えました。社会人になっても、こういった活動に積極的に取り組んでいきたいです。

○学習支援

- ・机間指導をしていて、学力の差を感じ、授業についていけない子に対しての支援を担任一人でしていくのは難しいと実感した。それでも、自力で答えを導こうとしている姿や友達に教え合う姿を見ることができ、学級経営の大切さも学んだ。オンライン授業では、1年生を見ていて、家で保護者がいない状況では一人で40分画面に向かうことは難しく、学力の差が出てしまうと感じた。全学年に少しずつ関わることができ、それぞれの学年や学級の特色を感じることができ、教育現場で学ぶ機会をいただけたことに感謝している。
- ・教育実習はずっと同じクラスしか見ることができないが、このボランティアは様々な学年とクラスを回って子どもたちの学習支援を行うことができ、一つ学年が違うだけで子どもってこんなに違うんだなと実感した。また、子どもたちはとても素直で一生懸命勉強している姿を見ることができたので、私もその思いにこたえたいと思い、問題がわからなくて困っている子に対してはその子が納得できるまで一生懸命教えた。また、子どもの様子だけでなく、先生の在り方も見ることができ、先生の表情がとても大事なんだと感じた。いつもニコニコして子どもに寄り添っている先生の姿があり、その先生を見て、子どももその先生に心を開いて話している場面を見ることができ、先生の表情や動作で子どもとの関り方も変わってくるなと感じた。10回のボランティアを行い、今の学校の実態を知ることができ、感じたことや学んだことを教員になった際に活かしていきたいと感じた。

○中学校の体育祭救護補助

- ・実習では行う機会の少なかった外傷の手当てを行うことができ、小学校実習でとても役に立ちました。指導して下さった養護教諭の細かな気遣いや手当てで気を付けることを多く知ることができて良い経験になりました。また、行事での先生方の行動や準備、片付けの流れも知ることがラスを回って子どもたちの学習支援を行うことができました。

○高等学校の教育支援

- ・授業や休み時間、掃除の時間などで生徒と触れ合うことができ、高校生の実態や高校での教員の仕事について身をもって学ぶことができました。体育の授業を中心に授業の補助を行いました。生徒と一緒に授業を作っていくことの楽しさについて学ぶことができました。高校の教員を目指す自分にとって、とても有意義な体験になり、この経験を活かせるような教員になりたいと思いました。
- ・基本的には教員の補助に入り、できない生徒や困難を抱える生徒に対し声掛け・アドバイス等を行うことが主たる活動内容でした。座学の授業だけでなく保健体育の授業補助にも入り、教師の目の届かない生徒に球技でのフォームのアドバイスやサッカーでのけり方のコツ、用具の安全確認の仕方などを教員の指示のもと行いました。高校では不登校の生徒や学校が苦手な生徒、暴力的な生徒など困難を抱える生徒が多く在籍しているため、生徒との一定の距離感を保ちつつも、生徒を観察しながらアドバイスなどを行いました。